

## 4. 評価結果 ～ 自由記述から ～

### こども園保護者 自由記述欄から

- ・17～22の項目に関して整備が遅れている。
- ・園小中一貫教育で発達障害、発達支援にもっと力を入れてほしい。ことばの教室が園小中全てでほしい。先生を増やしてほしい。
- ・園の離職者が多いように思う。子どもたちをみてくださる先生方が働きやすい環境の整備が必要なのは。アンケートの封筒は、名前がないものにしてもらえると安心して意見が記入できると思う。
- ・アンケートが抽象的で質問の意図がわかりづらい。
- ・もっとわかりやすい言葉でアンケートをとってほしい。キャリア教育、ICT、コミュニティ・スクールで本当の意味がわかっているなければ意味がない。アンケートは、ICTを活用して携帯から答えられるようにしてほしい。
- ・教職員数が十分か？休暇等のケアは十分か？教育者の心身共に充実してはなかなか厳しいと思う。数と質の双方必要と考える。
- ・こども園の職員不足が気になる。泣いている子がそのままにされていたり、トイレに行きたいのに待たされている園児をみてとても胸が痛んだ。今いる先生たちは少ない人数で必死に対応しているように思える。
- ・子どもたちのためにいつもありがとうございます。
- ・教職員の資質能力向上には、労働環境の改善は必須だと思う。保育者の確保に尽力してほしい。
- ・毎年、人事が大変変わりやすく、子どもは不安そう。教員が働きにくい職場の改革をすべし。
- ・早い段階での英語の授業をする。
- ・遊具がたくさんある公園をつくってほしい。小中学校では、勉強の遅れが出ないように個別の対応をしっかりお願いしたい。
- ・子どもがまだ小さくあまり上記のアンケート内容がわからないが、前回、町の健診の時の保健師の方の対応態度がよくなかった。親として不安に思っていることを相談したのに時間になったら他の方へまわされた。もう行きたいと思わない。
- ・コミュニティスクールの一貫で谷口たかひささんの講演会や町をあげてのオーガニック給食に向けた検討会など、子どもたちが郷土を愛し、守っていこうとする心を育み、やるべきことは何かを自分で考え、一步を踏み出しやすくするための取組や働きかけが加速していることに希望を感じる。町民、保護者も行政任せにするのではなく、主体的に関わり、子どもたちが大人の都合で我慢を強いられることがない未来をつくっていききたいと思う。
- ・子どもが遊べる場所が少ない。特に、屋内スペースはなく、未就園児が安心して遊べる場所がない。児童館の設置を切に願う。(現行だと子ども園内にあり、子育て支援事業がことごとく中止になり困っている。)
- ・もっと自然や地域の特性を活かした体験学習をどんどん取り入れるべきと思う。また、他の地域に負けないよう語学に力を入れる(少なくとも英語)等、睦沢町独自の教育プログラムがあったら魅力的に感じる。
- ・こども園保護者だが、先生方の待遇が心配である。熱心な方ばかりなので、人員不足や過剰勤務などないよう、安心して働いていただければ私たちも安心である。
- ・小学校以上の先生方も同様に、町・教育委員会には大切にしていきたい。保護者として可能な限りの協力はしますのでよろしくお願いします。
- ・アンケートをインターネットにしてほしい。兄弟姉妹がいると大変である。



## 小学校保護者 自由記述欄から

- ・目標、課題や取組に対する具体的な施策について特に明記がないため、何を实际行っているのかがよく分かりません。どこかに明記がすでにされているという場合には、更新を随時お願いしたい。目標が曖昧に感じる。「何をどうしたら」目標を達成したと言えるのか、具体的な目標にすべきと感じる。
- ・もっと町全体として取り組んでほしい。対象となる人たちだけに絞るのではなく、広い意見を集めてほしい。部活動に活気がほしい。現代の子の運動能力を上げる活動も。
- ・17～22の項目に関して整備が遅れている。
- ・情報発信が少ない。わかりやすくしてほしい。
- ・発達支援、ことばの教室のできる先生を園・小・中においてほしい。もっと力を入れてほしい。
- ・重要度を聞かれると、ほぼ全てにおいて重要だとは思ふ。しかし、満足度を聞かれても施設利用することはほとんどなく学校に行く機会や関わりもほとんどなく先生方、子どもたち、学校の様子などもほとんどわからないので、聞かれても分からないとしか回答ができない。
- ・部活動をやるのであれば、年間を通してきちんとやってほしい。
- ・新校舎はいつできるのか？
- ・教職員の資質能力の向上には、労働環境の改善が重要だと考える。仕事量の軽減や適切な労働対価が支払われているか見直して、睦沢町に高い能力のある教員が集まるようになってほしい。
- ・具体的に行った取組など提示していただけると、アンケートの回答もしやすいのではないかと思います。
- ・目指す子ども像として掲げる「自ら一歩を歩み出す15歳」をどのように評価し、検証していくのかが気になる。小4・6年で今年度行われた地域人材を活用したキャリア教育やアントレプレナーシップ教育はとてもよい取組だと思う。反面、コミュニティスクール事業がどれだけ推進され、広く開かれた学校として学校、保護者、地域が一体となって子どもたちのよりよい教育の充実を図れたのか疑問が残る。コミュニティスクールとしての機能が十分に発揮されるよう、開かれた学校づくりを期待している。
- ・園、学校教育目標に沿って、児童・生徒が明るくのびのびと育つ教育を望む。
- ・「第2期睦沢町教育振興基本計画」を町ホームページで読んだが、概要版だけでもよいので、今回のアンケート調査用紙に添えてほしかった。目を通さないことにはどのような改革に基づいて教育振興基本計画が立てられ、目標とされているのか分からず、しっかり答えることができないと感じた。
- ・施策8、9に関して「睦沢町いじめ防止基本方針」のもと、全ての子どもたちが安全に安心して学校生活を送ることができる環境を強く望む。子どもたちのアンケートでは、「自他の大切さを認める」と回答した割合は高いが、いじめは起きている。
- ・施策12～14に関して、学校に居づらさを感じる子どもたちへの対応を柔軟に行ってほしい。
- ・町教育委員会は「無償の学習機会を確保」「効果的な支援」とあるが、具体的にはどのような支援か？「むつざわアフタースクール」は不登校の子どもたちには足を運びにくい環境ではないかと感じる。
- ・新型コロナウイルス対策だけではなく、何らかの理由で登校できない子どもたちに対しても常時オンライン授業を行い、出席扱いとしてほしい。
- ・教室に入りづらい子どもたちが学び過ごせる場所を校舎内に設け、専任の教職員を配置してほしい（少人数指導）校舎内でなくても、オンライン上での学級をつくり、その中で勉強や学活をすることもできないだろうかと思う。
- ・スクールカウンセラー 在日を増やしてほしい。
- ・フリースペース「ひだまり」の利用は、現状小学生のみですが、中学生も可能にしてほしい。一貫



した生徒指導、コミュニティスクールを目指しているのであれば、小学校卒業から中学校入学という移行時期に、安心して過ごせる場所があることは、学校に居づらさを感じる子どもたちの安心につながると思う。

- ・必要に応じて、支援員の配置を増やし、少人数指導、個に応じた指導を行ってほしい。
- ・15年間の切れ目のない一貫プログラムならば、その間の引継ぎをしっかりと行い、関係者間の情報共有をしっかりと行ってほしい。
- ・校内特別支援委員会を情報共有し共通した対応を行うためにも、目標値の年6回開催してほしい。
- ・管理職の「合理的配慮を考慮した支援体制づくり」への取組状況を管理職自身が自己評価するのは、支援体制がその子どもに合っているのかどうか、適切に判断をできるのかわからないと思います。本人や保護者、専門職等の評価も取り入れていくとよいのではないかと。障害のある子どもたちだけに限らないが、「nothing about us without us」を大切にしてもらいたい。
- ・通常学級において、特別支援教育支援員の計画的な配置を継続してほしい。
- ・生涯学習の推進については、公民館主催の生涯学習講座の回数が減ってしまい残念である。
- ・公民館図書室の本の貸し出しを冊数を増やしてほしい。

## 中学校保護者 自由記述欄から

- ・「第2期睦沢町教育振興基本計画」が絵に描いた餅で、現実には真逆だと感じる。みんなが「第2期睦沢町教育振興基本計画」について理解を深めてほしい。
- ・子どもたちが安全に集まれる公園が少ないと感じる。
- ・どのように動いてくださっているのか内容を全く知らなかった。発信は大変かと思うが、検討内容等見える化にして発信して下さるとありがたい。中学になるとより中が分からないので回答しづらい。
- ・学力の二極化について勉強したいけど、勉強の仕方が分からない子が娘の周囲に数人いる。学校では、家庭学習用ノートを1冊配付され、ここでも二極化が起きているように感じる。数学、英語は教科書より先生が出して下さるプリントの方が分かりやすいし、塾の教材が自学として優れている。各教科勉強のやり方や手順も違うので、そこをチェックシートなどを使用してご指導いただけたらと思う。(勉強のやり方がわからない子用)
- ・21~23について、町民全員で子どもたちを支えていこうとするスローガンはあるものの、子どもたち主体、あるいは優先的に支援しようとする方向性に欠けていると感じることがある。バスの利用等々・・・。
- ・計画は大変よくできている。このアンケートは保護者だけでなく町民にもした方がよい。  
(町民からのリクエストがあった)
- ・タブレットの管理、インターネットの接続、徹底していただきたいと思う。また、オンライン授業の活用も他校と比べると、断然少ないと思う。コロナ禍で自宅待機になった場合、もっと活用していただきたい。
- ・基本、何をしているのかわかりにくい。「園小中一貫教育」「コミュニティスクール」言葉だけで中身が伴わないのでは意味がない。一貫教育が全てよいかというとデメリットも大きいと考える。特に、小さな町なのでデメリットに対する対応、どのように考えているのか?そもそも、デメリットに気づいているのかと思ってしまう。
- ・睦沢小になったことで学習意欲が低下したと思う。「魅力ある学校づくり」を推進しているとあるが、何のことか分からない。いじめも不登校もなくならないし、悪化していると思う。子どもたちのことを考えるなら、少人数クラスの方がよいのではないか。
- ・(1)~(6)を通じて、特に満足している、不満があるという点はない。大人目線での改革等、求めている点もない。幼児、児童、生徒目線にて、何か興味をもてるような教育のあり方があるならば・・・。また、コミュニティの狭さから、子どもの少ない地域ほど、競争力、探究心が薄れているのではと感じることがある。
- ・いじめアンケートをクロムブックにしたらどうか。  
理由:教室で記入する際、まわりの人の目を気にして書けない子がいるのではないかと思います。



## 5. 評価結果に対する考察

今回のアンケート調査から、教育振興基本計画に対する児童生徒と保護者の回答からその特徴を捉え、その結果から今後の睦沢教育に必要となる方向性等を明確にしておきたいと考える。

小中学生については、全体的にみて「重要度」「満足度」ともに高い傾向があり、教育振興計画の柱としたものは概ね修正の必要はなく、その推進状況をはかる上での満足感も高いことから現在の取組を継続して推進することが大切であると考ええる。

詳細にみてみると、以下の内容で満足感が高く、達成状況に優れていることがわかる。

重点施策 7	豊かな心を育む教育の推進
重点施策 15	教職員の資質・能力の向上
重点施策 17	子どもたちの安全・安心の確保
重点施策 23	運動・スポーツに親しみ「健幸長寿のまちづくり」推進と障がい者スポーツの啓発と理解

逆に、以下の内容では満足感がどちらかというと低めで、今後、課題を整理し、必要な改善を図っていくべきものと考えられる。

重点施策 11	体力の向上と学校体育活動の推進
重点施策 14	一人一人の状況に応じた支援の充実
重点施策 19	家庭教育支援体制の充実
重点施策 20	家庭・地域と連携・協働した教育の推進

課題として取り上げていくものをみると、ここ近年のコロナ禍の影響もあり、体力低下が顕著になっていることがあげられよう。県教育委員会でも近年の児童生徒の体力低下には危機感を感じており、体力向上に向けた推進に配慮するよう通知を出している。部活動の地域移行も含めて、児童生徒の体力向上について具体的な対策を講じたいところである。次に、家庭教育の充実があげられよう。子どもの成長にとって、家庭教育がいかに重要な位置づけとなるかは論を俟たない。一方で、家庭教育には様々な課題もあり、個々のケースに応じた支援が必要となる。課題を抱えた家庭については、早期に関係機関及びカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、課題解決に向けた取組を検討し、必要に応じた対応を図りたい。また、学校では必要に応じてケース会議を開催したり、担当者だけの対応ではなく、学校全体が組織的に対応したい。本町においては、コミュニティスクールを導入して今年度で5年目となる。様々な形で学校の支援者として子どもたちに教育や学校づくりに関わってくれている。一方で、コミュニティスクールの内容やそのよさが町民全体に周知し切れていないのが大きな課題である。関わっている人と関心のある人、関わっていない人と関心のない人の二極化の様相を呈していると思われる。いかに、コミュニティスクールを町全体に発信していくのか、さらには、いかに多くの人に学校との関わりをもってもらえるのか、5年を経過する今、この原点に今一度立ち返る必要があると考える。

次に、小中学生と同様、保護者のアンケート結果をみる。

「ICT教育」「外国語教育」「思考力・コミュニケーション能力の育成」は重要であるとの認識をもち、比較的その内容には満足感があるとの傾向を示している。これは、GIGAスクール構想でのICT環境の整備やALTを導入した外国語教育の成果とも言えそうである。また、本町では、町教育振興会を中心に、園・小・中で一貫教育を推進し、今年度公開研究会も行った。その中で、



「コミュニケーション能力の育成」を軸にカリキュラムを作成し、町が目指す児童生徒像を共有しながら研究を推進したことがプラスとなったことは間違いのないであろう。さらに、園・小・中学校の教職員が互いを理解し合うための協議を有効にもつことが求められる。また、規則正しい生活習慣や危険回避能力の育成にも達成感を感じている保護者が多かった。町のスタンダードを作成し、家庭への啓発を図ったり、避難訓練や「命を守ることへの指導」を地道に継続することが児童生徒の変容につながったものと考えられる。

一方で、児童生徒の考察と同様、「家庭教育への支援」「コミュニティスクール等の魅力ある学校づくり」には課題があるとの指摘がある。具体的な内容やそのよさが十分に伝わってなく、どのようなメリットがあって、どのような効果があるのかが不明であることが考えられる。これらの取組を十分に周知するための策を検討し、町ぐるみで子育てができる環境をつくりたいところである。そのための一歩踏み込んだ情報発信や保護者同士の情報交換の場の提供等を考える必要がある。

## 6.まとめ

2020年4月「第二期睦沢町教育振興基本計画」のスタートの年に、睦沢町園小中一貫教育校が開校した。同時に、本町の教育振興を支える基本理念を「郷土を誇りに思う心と人間力・社会力の育成および生涯にわたる幅広い学びの推進」と定めた。そして、2020年からの「睦沢教育」を推進する施策として、次の5点がその重点として施策に反映されている。

- (1) 園小中一貫教育の推進
- (2) 予測のつかない社会の変化に対応するための知・徳・体の育成と環境整備
- (3) 職場や地域社会で多様な人々と連携・協働する力の育成
- (4) 多様なニーズに対応した教育機会の提供
- (5) 家庭教育の支援、学校・家庭・地域の連携・協働

現在、上記の基本計画スタートから2年半が経過し、中間点で行った今回のアンケート調査から、様々な成果と課題を把握することができた。この計画に沿った教育実践の中で、実際に学校生活を送る児童生徒及び我が子とその教育を受けている保護者の生の声を把握したことは、大変意義深いものと考ええる。

「睦沢教育」の推進に当たって、施策として取り上げたものの重要性や満足度は、児童生徒や保護者の立場からは概ね良好な結果であった。一方で、家庭教育への支援のあり方や本町の大きな特徴とも言える「コミュニティスクール」等への理解・協力については、今後検討すべき課題として残った。その中で、学校・家庭・地域の双方向の連携をいかに強いものにしていくかが重要な鍵となることもみえてきた。互いがより深く密接に関われるような関係づくりを構築できるかが今後の課題と言えよう。今以上に互いが互いを知るためのコミュニケーションの機会を無理のない形で提供していくことが求められるものと考ええる。

来年度、睦沢町は町制40周年を迎える。町のキャッチフレーズは、「今も未来も いろんな笑顔であふれる町 おつざわ」。学校で、家庭で、地域で、子育てや睦沢教育を通じて、手を取り合って、関わり合って、温かいコミュニケーションで皆が笑顔になれる町。睦沢に住んでよかったと思えるような教育を展開できれば、これに勝るものはない。町全体が一つになって将来を生きる「睦沢の子」のために力を一つにしたいところである。そのためには、今回把握した課題としっかりと向き合い、課題解決に向け皆の力でよりよい「睦沢教育」を創り上げていきたい。

